



Vol.47



ゆうことみゆきのふくふくトーク

ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

セタ(犬)



「おとうさん」と聞いて、携帯電話
話会社のCMに登場するキラキラ

瞳の真っ白いワンコを思い浮かべられる人、多い
よね。実は彼は、アイヌの人たちが昔から
飼っていたアイヌ犬(北海道犬)なのです。
といっても、今のペットとはちょっと違って、
狩猟の際の大切なパートナー。獲物を探し
て追いかけるのももちろんのこと、クマ穴に
入って冬眠中のクマを誘い出したり、ご主人
人が襲われそうな時には、凶暴な巨大クマ
にさえ勇敢に立ち向かってくれる。つまり、
優秀なパートナーを持てるかどうかは命に
関わる問題だったの。だからこそアイヌの
人たちは犬を仲間のよう大切にし、息を
引き取った後は、他の動物とは異なる方法

で丁寧に折り、葬ったんだって。

ところで、犬のことはアイヌ語でセタと
言い、以前暮らしていた平取町にはセタナ
イという地名があったの。「犬の沢」という
意味だけど、言い伝えではオオカミが出て
きたから、その地名が付いたとのこと。ここ
からもわかるように、犬とオオカミはとて
も近い存在だと思われていたみたい。犬の
お葬式、つまり魂を送る儀式では、「祖先
であるオオカミ神の所に帰れ」とか「あな
たの王であるオオカミ神の元に行け」と、
犬に向かって語りかけたと聞きます。

かと思えば、人間の味方をした病気の
女神が転生したものが犬なので、病気が来
るのを教えてくれるのだとも言われたり、
とにかく興味は尽きないですね。

美幸さん、犬にまつわるお話は？



当博物館にもいますよ、
人気者のアイヌ犬。そのC

Mで人気の「おとうさん」犬の娘
が。親子だけあってよく似ているん
ですが性格はちょっとシャイかな？

近頃はCMの影響もあってか白い
アイヌ犬が人気で、当館でも六頭い
る中、四頭が白色。それ以外にも赤
やトラ、ゴマ、黒などいろいろな色
がありますよね。毛色によって犬の優劣



に違いはないといわれますが、クマ猟をする
猟師さんの中には「同じアイヌ犬であっても
猟犬に使う場合は色で選ぶ：黒い犬はで
きるだけ使わない。」って、狩猟には赤か白
色が良くて、黒はダメだっというの。きっと
飼い主との相性ってあるんだよね。

猟犬としての資質は見た目でも判断で
きるとのこと。耳と耳の間隔が広い犬は度
胸があるとか、仔犬をぶら下げて、足を後
にピンと張る犬は足が速いとか…。また、
犬の動きでどんな獲物を探しているのか
わかるんだって。鼻を高く上げ木の幹や枝
に気を配っている時はリスなどを追ってい
て、反対に鼻を低く地面に付けるように
しているときはタヌキやイタチの匂い、シカ
やクマの足跡を探しているんだって。アイヌ
犬の優れた嗅覚は、かなり遠くに離れてい
るクマの匂いをも嗅
ぎ出すっていうから
すごいよね。白老で
は、犬は火の神の使
いとして山の神であ
るクマ神を迎えに
行く使者と考えら
れていたとのこと。
まさに猟犬の中の
良犬ですね！

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。